

2021（令和3）年度
ボーイスカウトとあそぼう！
ワクワク自然体験あそびマニュアル



1 2021（令和3）年度の「ワクワク自然体験あそび」について

今年度の本事業は、文部科学省からの受託事業（※）ではなく、日本連盟の独自事業となります。しかし、本事業の趣旨としては、昨年度と同様に、各地域の感染状況及び感染防止に十分留意した上で、自然の中での体験活動を充実する取組みを全国的に展開することで、子供たちを取り巻く環境に生じている閉塞感を打破するとともに、子供たちの元気を取り戻し健やかな成長を図ることにあります。

なお、本事業の対象者は、団や地区などの実施主体で決めてください。

※令和2年度は文部科学省受託事業（子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業）として実施しました。

2 本事業におけるスカウト募集について

本事業の目的は、1で述べたとおりであり、事業に参加をする子どもたち、保護者は自然体験活動をしたい、させたいということで参加します。まずはこの趣旨、要望に十分に correspond いただき、そのうえで、参加者やその保護者にボーイスカウトの資料を渡したり、活動の紹介をしたり、さらには次回以降の隊集会などへの参加を誘うなどを行ってください。関係者においては、スカウト募集につなげたいという思いが強くなるかと思いますが、参加者は、「ボーイスカウトに参加したい」のではなく、まずは「自然体験活動をしたい」という想いで参加をしています。スカウト募集を全面に押し出すことがないようにご注意ください。

特に、都道府県市区町村、都道府県市区町村教育委員会の後援を申請する際も、「スカウト募集」等の言葉が事業目的やチラシ等に記載されていると「公益性が無い」と判断され、申請が認められない場合があるので、ご注意ください。

3 「そねえよつねに共済」について

今回は、日本連盟で「そねえよつねに共済」の共済掛金の負担はしません。必要に応じて、それぞれの実施主体で共済への加入をするか、レクリエーション保険等をご手配ください。

4 新型コロナウイルス感染症の対応について

本事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、子供たちを取り巻く環境に生じている閉塞感を打破するとともに、子供たちの元気を取り戻し健やかな成長を図ることを目的として、各地域の感染状況及び感染防止に十分留意した上で実施するものです。日本連盟から現在、一律で各地域の活動自粛の対応は要請していませんが、各地域の感染症拡大の状況にしたがって、県連盟の方針に則り、活動実施可否などの判断をお願いいたします。

事業を延期とされる場合は、感染状況が落ち着くことが前提となりますが、気象条件等を考慮されつつ、2022（令和4）年3月までの間に可能な範囲で実施していただくようお願いいたします。

感染症対策の一つであるマスクについては、参加者には持参するようお願いをしたうえで、念のために予備を用意するようお願いいたします。ただし、活動内容では熱中症などを含めて「マスク」をしない対応も必要です。「スカウト活動における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」にも記載がありますので、この点もご確認ください。検温については、通常の活動と同様の対応としてください。

また、万が一、本事業の参加者に発熱等の症状が出た場合には、県連盟の指示にしたがって、関係機関に報告をすると共に、参加者への連絡をお願いいたします。

5 「子ども自然体験活動推進協議会」について

昨年度、県連盟ごとに設置した「子ども自然体験活動推進協議会」は、今年度、設置の必要はありません。しかしながら、昨年度の事業で構築できた地域行政、学校、各団体等との関係性を維持できるよう協議会を設置したいとお考えがある場合は、設置しても差し支えありません。

6 都道府県・市区町村等の後援名義の取得

一般的に、都道府県・市区町村や教育委員会の後援は「名義後援」といって、一定の基準を満たしている場合は申請書を提出するだけで簡単に手続きができます。都道府県・市区町村によって、この基準は多少異なりますが、概ね次の3点を満たしていることが必要です。

- ・公益法人等の公共性の強い団体や法人格を有していなくても公共の福祉に係る事業を行うことを主たる目的としている団体が主催していること。
- ・堅実な活動実績があり、事業遂行の意志及び能力が十分にある団体であること。
- ・公共の福祉（青少年の健全育成など）のために奨励すべきもので、かつ域内での行事であること。したがって、「スカウト募集」を目的とした場合、一般的には後援は認められません。

この「名義後援」の承認が得られると、チラシ等の広報媒体に「後援：●●県（市区町村）・●●県（市区町村）教育委員会」と明記できるようになります。その他の便宜供与は特に無いのが一般的ですが、市区町村によっては域内の小学校や中学校にチラシ等を配付してもらえる場合があります。便宜供与が一切無くても、チラシに都道府県・市区町村や教育委員会が後援をしていることを記載できれば、それだけでそのイベントの信頼感を高めることができ、参加者を増やす1つの有効な手段になりえます。

申請の手続きは、都道府県・市区町村の青少年行政所管課、教育委員会の生涯学習所管課となります。市区町村の定める申請書のほか、事業計画書が必要になります。また、終了後には簡単な報告書を求める市区町村もあります。

団が個別に申請するのは煩雑になりますので、地区で一括申請することをお勧めします。ただし、都道府県・市区町村によっては、一括申請を認めていない場合がありますので、一度、役所、教育委員会に早めにご相談ください。

【一括申請をする場合】

- ・主催を各団ではなく地区とすることが必要です（＝事業計画書を地区単位で作成）。
- ・チラシ等の広報媒体には、全ての体験活動の日時、場所の記載を求められることが多いです。

7 体験活動を展開する上でのポイント（一例）

(1) 受付時

- ①本事業用にデザインした別にお示しする「名札」を用いてください。参加者の氏名を事前に名札にプリントしておく場合は、間違いのないようにダブルチェックをするなどして充分気を付けてください。保護者は我が子の名前を間違われただけで、不信感を抱きます。
- ②学年によっては、名札の名前を平仮名書きにするよう配慮してください。
- ③名札の裏面は敢えて作成をしていませんので、団で自由に使ってください。団の紹介（ホームページのQRコード）や参加者の学校別学年別の人数など記載しておくのも効果的です。保護者は、心理的に我が子の名前を書いてあるものは捨てにくいものですから、名札もPRツールになり得ます。

- ④受付では、本運動の普及啓発資料を保護者にお渡しください。なお、その際は、団の紹介や月間プログラムなども一緒に渡すようお願いします。日本連盟の作成する普及啓発資料は、全国で使用するものですから、概括的なものにならざるを得ません。「体験活動で、ボーイスカウトのパンフレットを貰ったが、自分の子どもが具体的にどんな活動をするか分からない」という声は保護者の間に根強くあります。個別具体の活動内容が分かる資料は、必ず普及啓発資料と一緒に渡してください。

(2) 受付終了後

受付が終わってから本事業の開始までは、一度参加者を保護者の元に戻したり、ただ待ってもらうことはせずに、ベンチャースカウトやローバースカウトと一緒に簡単なゲームなどをして過ごすと、参加する子どもの緊張感が和らぎ、体験活動にスムーズに入り込めます。

(3) 体験活動中

- ①参加者は、初めてスカウティングに接する子どもですから、あまり形式的な開会セレモニー等を実施するよりも、柔らかな雰囲気の中で体験活動を始めるのも検討に値すると思われます。
- ②本事業においては、可能な限り、ベンチャースカウトやローバースカウトに活躍の機会を提供いただくようお願いします。そして、保護者には「この活動を続けると、将来、このような青少年に育ちます」という説明をしてください。我が子の将来の姿を想像できると、「ボーイスカウトに我が子を入れてみよう」という意識は高くなる傾向にあります。
- ③一般的に、保護者は我が子の様子を見ていたいものです。したがって、一定時間は、自由に活動の様子を見てもらうことも大切です。その際に、成人指導者が活動の目的や意義を個別に説明すると、保護者の興味と関心をボーイスカウトに向かせることができます。
- ④しばらくの間、活動の様子を見てもらったら、保護者を集めて受付時に配付した資料を用いてボーイスカウトのことを説明してください。普段、団で行っている説明会の内容で結構ですが、その際のポイントは後述します。

8-1 保護者に響く「ボーイスカウト」についての説明のポイント①

一般的に、保護者はわが子の成長に次のようなことを期待しています。以下に挙げる視点からこの運動の特徴を説明してください。

(1) リーダーシップを発揮できる子、自ら発言・自己表現できる子になって欲しい。

普段の生活の中でリーダーシップを発揮できる機会が少ない子にも、ボーイスカウトでは、指導者が意識的にその場を作っています。活動の中では、それぞれの役割に応じて一人ひとりのスカウトがリーダーシップを発揮する場があることなどを説明してください。また、発表や自己表現の場は、どのスカウトにも平等に機会があることを併せて説明してください。

(2) 野外で活動をさせたい。

ボーイスカウトは「野外が教場」であることを説明してください。ただし、発達段階に応じて5つの部門があり、年齢に応じて、累進的に活動を行っていることを説明しないと、ビーバー部門で過度な野外活動を期待し、失望させてしまう可能性があるため、注意が必要です。

(3) 判断力、考える力を持たせたい。

この運動の成り立ちは、「Scouting for Boys」を読んだ少年たちが自然発生的にその真似を始めたことにあります。この成り立ちから、伝統的にボーイスカウトは子どもたちの自発性を大切にしています。この自発性を大切することこそが、考える力を育む大きな原動力となっていることを説明してください。

8-2 保護者に響く「ボーイスカウト」についての説明のポイント②

この運動の特徴を次の視点から保護者に説明をしてみてください。

(1) キーワード「仲間」－家庭でも、学校でもない仲間と居場所がある。

- ①一生付き合っていくことのできる仲間と出会える。
- ②仲間の中で一人ひとりの個性を活かし、認め合いながら成長することができる。
- ③他の学校、異年齢の仲間と関わりを持つことができ、子どもの居場所が増える。
- ④世界中に同じ仲間がいる。
- ⑤共に挑戦する仲間がいて、それを見守る指導者がいる。

(2) キーワード「自然」－野外活動を通じて、「生きる力」を身に付ける。

- ①自然の中で活動し、日常生活では得られない体験を通じて、子どもが自分自身で成長していく。
- ②（昨今の防災意識の高まりを受けて）普段のボーイスカウトの活動が、防災プログラムに繋がっている。

(3) キーワード「挑戦」－困難なことでもあきらめないでやり遂げる力を身に付ける。

- ①ワクワク、ドキドキ、そしてちょっとハラハラするプログラムを展開している。
- ②仲間と共に、考えて、工夫して、失敗して、遅くなる。
- ③目標に向かって、仲間と考え、助け合い、協力することの大切さを体験を通じて学ぶ。
- ④家庭では体験できない、年代に応じたダイナミックなプログラムがある。

(4) キーワード「多様性」－ボーイスカウトの持つ雑多さがスカウトを遅しくする。

- ①学校とは異なる別のコミュニティを持つことになる子どもたち。
→1つの学校からでなく、複数の学校からスカウトが集まっているので、スカウトにとっては学校の人間関係とは別のコミュニティを持つことになり、人間関係に深みが出る。
- ②子どもたちを見守る様々な価値観を持った指導者たち。
→多くの指導者がスカウトたちを見守る。その指導者たちは、年齢も職業も様々で多様な価値観の集合体であり、その様な価値観を通して1人のスカウトの成長を支援していく。親や学校の先生以外の大人に子どもが褒められたり、相談できたりする点に魅力を感じる保護者は多い。
- ③どんな子どもでも何か興味を持てるバラエティに富んだプログラム。
→野球やサッカーなどの体育的活動、ピアノや書道のような文化的活動であってもそれだけの活動となるが、ボーイスカウトは進歩課目を通じて様々なことを経験する。

9 「体験活動ノート」の提供

昨年度、提供した「体験活動ノート」は、後述の情報ページからダウンロードしてお使いください。

10 日本連盟が設けるエントリーサイトについて

(1) エントリーサイトの使い方について

昨年と同様に「ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび」ホームページ（以下、エントリーサイト）から、参加を希望する児童の保護者は参加申込みをします。

エントリーサイト：<https://www.scout.or.jp/member/wakuwaku2021entry/>
ホームページを利用した申込方法の準備は、別途ご案内します。

(2) エントリー手続き後のメール送信について

昨年度は何人ぐらいの申込みがあったかを確認するためには、エントリーサイトにアクセスする必要がありました。そのため、大幅に参加人数が超過する団も見られました。今年度は、エントリーがあったら都度、指定されたメールアドレスに「エントリーのお知らせ」メールを受け取れるようにいたします。設定方法などの詳細は別にお知らせします。

また、申込者にも手続き完了メールを自動送信するようにシステムを改善しました。

(3) 参加申込者リストの出力について

各地の実施者（各地区・団）の方は、専用 URL にアクセスしていただくことで、リアルタイムに集計される「申込者リスト」を入手することが出来ますので、当日の運営にご活用ください。多くの個人情報にアクセスすることになりますので、その専用 URL の共有などはお控えください。

11 募集用チラシの提供について

(1) フォームの提供

募集用チラシのフォームは引き続き提供します。今年度は、団でオリジナルのチラシを作成していただくことも可能です。その場合でも、事業名は「ボーイスカウトとあそぼう！わくわく自然体験あそび」とし、本事業のロゴマークは掲載していただくようお願いいたします。

(2) エントリーサイト誘導のためのQRコードと事業コード

団でオリジナルのチラシを作成する際には、エントリーサイト誘導のためのQRコードと事業コードを必ず掲載してください。

(3) 印刷について

印刷は各実施主体においてお願いいたします。今年度は、日本連盟による経費補助はありません。

(4) 作成にあたって

「開催場所」や「持ち物」欄には、誰が見てもわかるような表現にしてください。「団ハウス」や「マイカップ」と書かれても、一般の方には馴染みがありません。

(5) 配付について

昨年度、1つの小学校等に複数の団からチラシの配付の依頼があり小学校等から「困惑した」とのご意見がありました。配付する小学校等が同じになりそうな場合は、近隣団と調整のうえ、チラシを1枚にまとめる等の配慮をいただようお願いいたします。